

平成22年度全国高等学校総合体育大会【美ら島沖縄総体2010】
(第78回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成22年8月18日(第2日)

会場: プール

ゲームNo

12

帽子の色 白
三重県立四日市中央工業高等学校

11

天候: 晴れ

2回戦⑧		
3	-	2
2	-	0
4	-	1
2	-	2
EX.		
-		
-		
P. T.		
-		

青 帽子の色
大谷高等学校

5

審判1: 井上 嘉隆
審判2: 榎本 隆

戦評

四日市中央工業は1回戦の青森商業を大差で下し、疲れを残さないまま2回戦へ駒を進めた。昨日の勢いを今日の試合につなげたいところである。対する大谷は近畿大会を3位で通過し12年ぶりのインターハイ出場を決めた。初戦突破を目標に意気込む。

1P 大谷からの攻撃、開始直後青⑥宮田がトップからミドルシュートを放つが得点にならず。四日市中央工業はカウンターを出すのが得点にはつながらない。最初の得点は、大谷、青⑤中嶋が放ったミドルシュートのリバウンドボールを青②長谷川が素早く対応し得点。すると4:27白⑫大野が退水を誘発し、白⑦加茂がパワープレーで同点打。大谷も負けずと青⑥宮田が切り返しシュートで対抗するが得点にはつながらない。1:38に白⑫大野がアーリーオフenseからキーパーの不意を突く5mシュートを決めると、残り15秒に青⑨竹内が2:1のカウンターで確実に決め2-2の同点。このピリオドはこれで終了かと思われたが、白⑫大野が0:00ブザービーターシュートを決め3-2の四日市中央工業の1点リードで終了。

2P 開始直後白⑫大野がフローティングからバックシュートを放つと、青⑨竹内も同じくフローティングからのバックシュートで応戦するがともにゴールにはならない。四日市中央工業は多数のシュートを放つがなかなかネットを揺らすことができずチーム全体に苛立ちが感じられる。大谷もカットインを繰り返すがボールがつかずシュートまでいけない。4:33白⑧柿市がフローティングで退水を誘発し、リターンパスをもらい得点すると、今度はカウンター中に相手の不意を突くシュートを右サイドから決め一気に5-2の3点差のリードを奪い前半を折り返した。

3P 一進一退の攻防が続いている、5:02白⑧柿市がカウンターを出すとキーパーが飛び出しボールをインターセプトしようとするがこれをうまくかわし6-2となる。これ以上点差をつけたくない時に大谷にチャンス。青⑥宮田がカウンターから退水を誘発するとタイムアウト。ここを青②長谷川がゴール前で押込み1点返した。ここで流れが大谷移るかと思ったが白⑧柿市が2点連続、それに続いて白⑦加茂も得点を重ね9-3と大きくリードしピリオドが終了した。

4P 最終ピリオドもお互いのパスミスやシュートミスで長い攻防が続く、スピードが落ち始めた時3:59白⑧柿市が左サイドから回し込みそのままゴールを決めた。青⑨竹内が果敢に攻め込みゴール前をケアしたところで青④辻村右サイドから鋭いシュートでゴールを揺らす。試合も終盤になる頃、白⑦加茂、白⑧柿市のコンビのとれたスクリーンプレーからノーマークを作り⑦加茂がゴールを決めた。最後まで食い下がる大谷は意地を見せ青②長谷川がペナルティを奪い1点を返した。しかしここでゲームが終了しベスト8進出は四日市中央工業が勝ち取った。

大谷のゴール前に果敢にカットインするプレーには今後の成長が期待される。四日市中央工業は明日のベスト4をかけた地元沖縄商業との対戦に、すべてをかけて望んで欲しい。

記録者

坂本 博文